

就労支援機関におけるアセスメント に関する調査

－ 職業準備性に関するアセスメントの現状について－

○ 武澤 友広・井口 修一・小林 一雅・古田 詩織・
内藤 真紀子・宮澤 史穂・伊藤 丈人・佐藤 敦
(障害者職業総合センター)

本発表のポイント

- 当センターが開発した職業準備性に関するチェックリストについて、認知度と実施状況の乖離を把握できた。この原因として、当該チェックリストを参考に各支援機関が独自にリストを作成し、アセスメントで使っている可能性が考えられる。
- アセスメントツールの開発に際しては、障害特性などの対象者の状況を考慮して提示された評価項目のうち、どの項目を選定して評価を行うか、その考え方をマニュアルに示す必要がある。

研究の背景

- 障害者の就労への移行にあたっては、移行前の相談支援において障害者本人の現状に適した就労の場や必要な支援サービスを相談するためのアセスメントが必要
- 「就労移行支援のためのチェックリスト」があるが、開発されてから10年以上が経過しており、現状を踏まえた評価ツールの開発が必要

就労移行支援のためのチェックリスト

障害者職業総合センター (2007)『就労移行支援のためのチェックリスト～障害者の一般就労へ向けた支援を円滑に行うための 共通のツール～』

- 就労移行支援事業者が、個別支援計画を作成し、支援を進める中で使用
- 就労移行の可能性の高低を評価するものではなく、支援すべき事項を明らかにするためのツール

必須チェック項目

以下の各チェック項目について、最もよくあてはまるもの1つに○をつけて下さい。

I 日常生活

チェック項目	自由記述欄
I-1. 起床 ①決まった時間に起きられる ②だいたい決まった時間に起きられる ③決まった時間にあまり起きられない ④決まった時間にほとんど起きられない ⑤決まった時間に起きられない	
I-2. 生活リズム ①規則正しい生活ができる ②だいたい規則正しい生活ができる ③規則正しい生活があまりできない ④規則正しい生活がほとんどできない ⑤規則正しい生活ができない	

調査の目的

ツール開発の参考にするため、既存のチェックリストの項目について以下を把握

- 基本的にどの対象者にも評価が実施されているのはどの項目か？
- 評価が難しいと考えられているのはどの項目か？

調査方法

【郵便による調査票の発送・回収】 R3.1月～2月

- 障害者就業・生活支援センター 335所
- 就労移行支援事業所 3,000所

【電子メールによる電子調査票の発送・回収】

- 地域障害者職業センター 52所

【調査対象機関による回答者の選定】

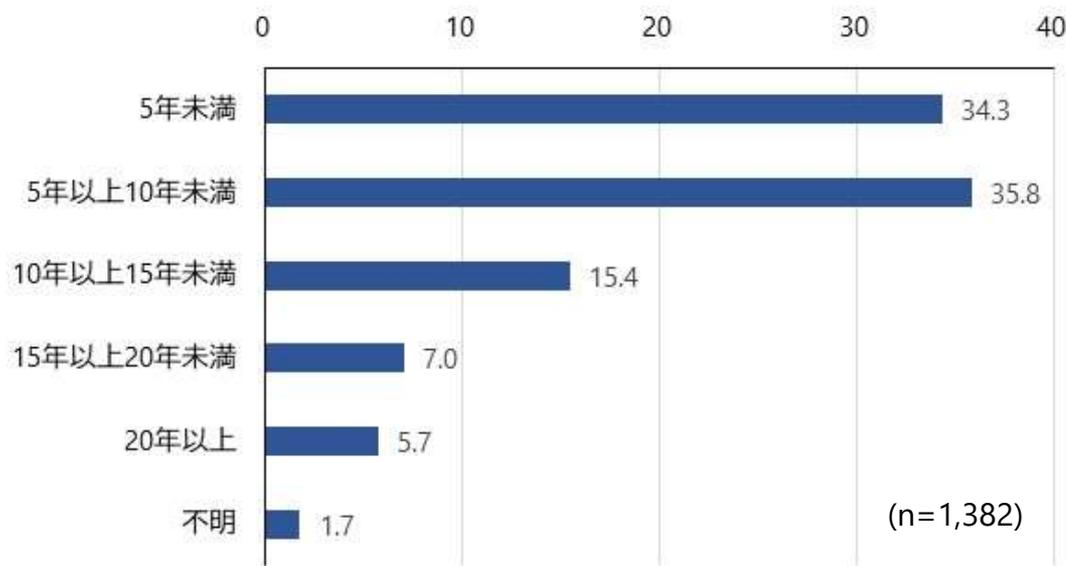
- 障害者の就労支援の経験が豊富な人

回収数(率)

1,373所 (40.5%)

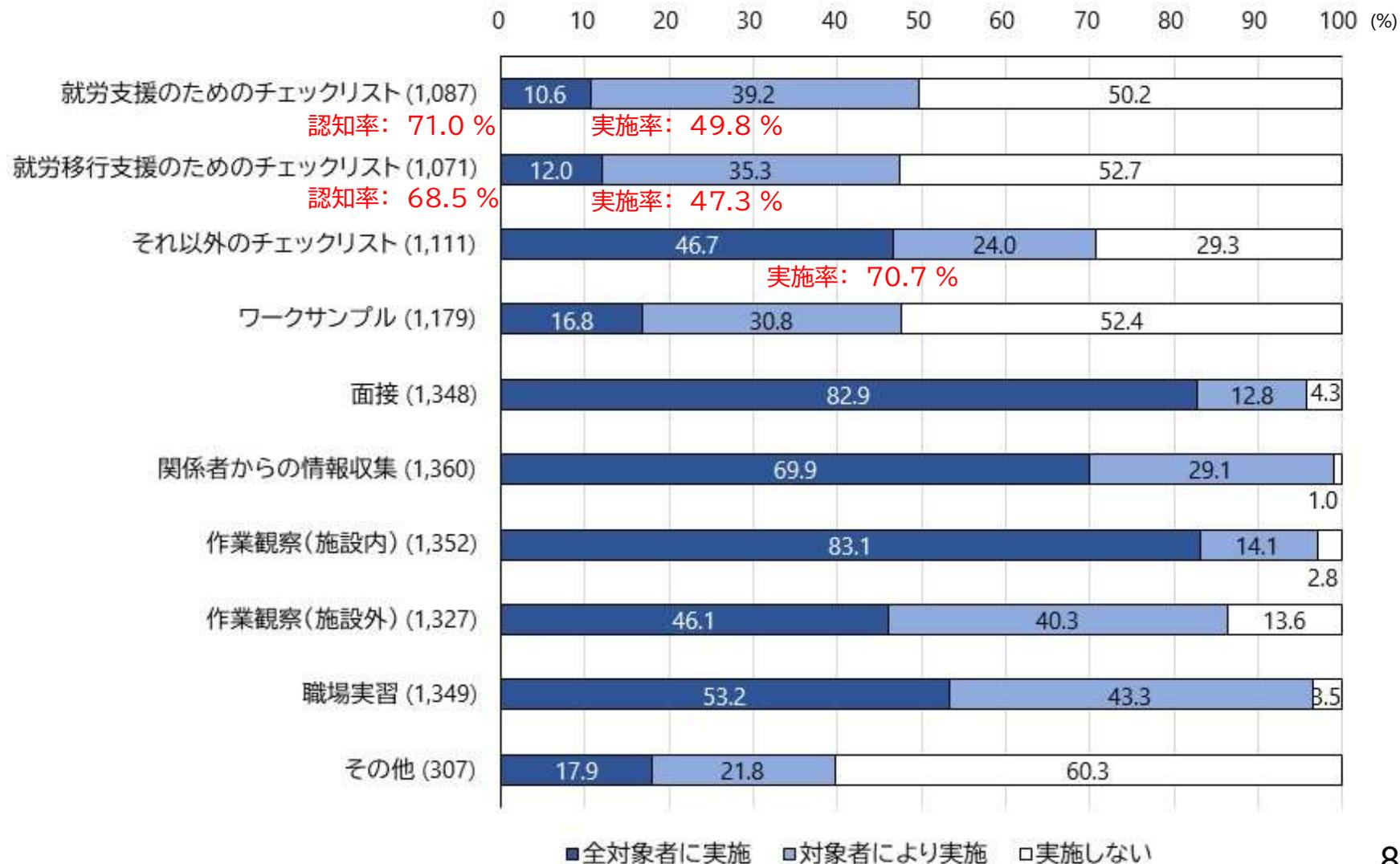
※ 総回答者数は1,382人。以下の分析は回答者単位。

回答者の就労支援の経験年数



平均値 99.0 (月)
(8年3か月)
中央値 82.0 (月)
(6年10か月)
最小値 4か月
最大値 36年

アセスメントに使用する方法やツール



既存のチェックリストの評価項目の 評価状況の把握

- ① アセスメントの実施状況を回答する障害種類
(身体障害、知的障害、精神障害、発達障害、
高次脳機能障害、難病者、その他)を1つ選択
- ② ①で選んだ障害種類の利用者の支援を考える際
のアセスメントについて、78の評価項目について
評価の状況を下記から選択
 - 基本的に(どのような利用者でも)評価する
 - (評価するかどうかは)利用者による
 - ほとんど評価しない

既存のチェックリストの評価項目の例

作業力（30項目）

- ミスなく正確に作業できる
- 作業環境の変化に対応できる

仕事への態度（8項目）

- 社会に出て働く意欲がある

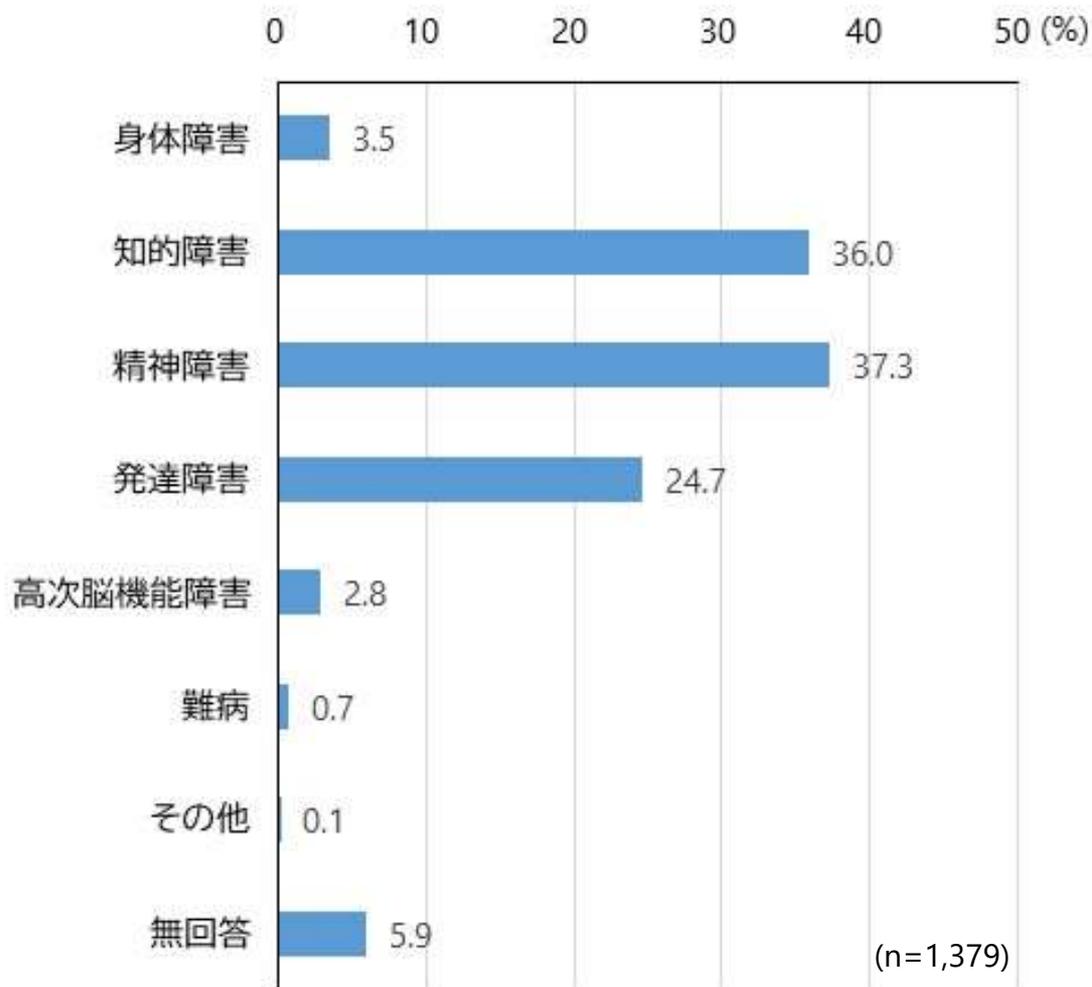
職業生活（25項目）

- 職場の規則を守る
- 医師の指示どおりに服薬している

対人関係（15項目）

- 注意されても感情的に反発したり、ふてくされることはない

どの障害種類について回答したか？



評価項目や利用者の障害種類による 評価の実施状況の違い

「基本的に評価」の選択率が全障害種類について50 (80) %以上： 49 (16) 項目

- ミスなく正確に作業できる 等

「基本的に評価」 or 「利用者による」の選択率が全障害種類について50%未満： 1項目

- 用件を伝えるのに電話、メール、FAXを利用できる

「利用者による」の選択率が全障害種類について50%以上： 1項目

- 作業工程や製品の流通が理解できている

「基本的に評価」 or 「利用者による」の選択率が50%以上の障害種類が一部存在： 27項目

- 計画的に有給休暇を取得できる 等

考察

- 当センターが開発したチェックリストについて、認知度と実施状況の間のずれを把握できた。この原因として、当該チェックリストを参考にして各支援機関が独自にリストを作成し、アセスメントで使っている可能性が考えられる。
- アセスメントツールの開発に際しては、障害特性などの対象者の状況を考慮して提示された評価項目のうち、どの項目を選定して評価を行うか、その考え方をマニュアルに示す必要がある。